

「日本水文科学会誌」執筆要領

2010 年 10 月 3 日改正

2012 年 10 月 29 日改正

2015 年 5 月 31 日改正

2017 年 3 月 16 日改正

2020 年 5 月 18 日改正

2025 年 6 月 9 日改正

1. 言語

- 1) 原稿は和文もしくは英文で執筆する。
- 2) 和文はひらがなと漢字による横書き口語体で書き，現代かなづかいを用いる。漢字は常用漢字とする。ただし，固有名詞や慣用語は，この限りでない。
- 3) 英文で執筆する場合は，著者の責任で適切な校閲を受けた原稿を投稿すること。

2. 表題，著者名，要旨，キーワード

- 1) 表題，著者名，要旨，キーワードの順に記載する。
- 2) 表題は英文と和文で記載する。
- 3) 著者名は全員分を英文と和文で記載し（外国人著者の場合は英文のみで良い），各著者名の右肩に数字を付ける。第 1 ページの脚注に，数字にあわせて所属機関名（和文，英文）を記す。なお，所属名は原則として受理時のものとする。また，投稿原稿の責任著者には，数字の後にアスタリスク（*）を付け，第 1 ページの脚注に，アスタリスクにあわせてメールアドレスを記す。ただし，メールアドレスが無い場合も可とする。
- 4) 総説，論文，研究ノート，資料には，英文要旨（300 語程度）と，それに相当する和文要旨（400 字程度）を記載する。
- 5) 5 語以内のキーワードを，英文と和文で記載する。

3. 本文

- 1) 章と節の番号は，それぞれ，I，II……と 1，2……とする。
- 2) 和文原稿については，句読点は「，。」とする。句読点，カッコ，ダッシュは全角とし，数字，ローマ字，ハイフンは半角とする。英文原稿については，句読点（，.）等は全て半角とする。
- 3) 数字はアラビア数字を用い，漢数字はふつうの字句についてのみ用いる。
- 4) 外国人名は欧字とし，最初の文字のみ大文字とする。
- 5) 数量の単位は原則として SI（国際単位系）を用いる。
- 6) 数式は 2 行どりとし，数式および本文中の変数にはイタリックを用いる。文字の大小や

数字が明瞭に区別できるように記載すること。特に、上付き、下付き、0（ゼロ）とO（オー）などが明瞭にわかるように注意すること。紙媒体の場合は、字体（ゴシック、イタリック、ボールド等）や、まぎらわしい文字を赤で指示する。

- 7) 和文原稿については、文章の書き出しおよび改行は一字下げで書き始める。英文原稿については、インデントを5字下げとする。
- 8) 本文中での文献の引用は著者名（発表年）または（著者名，発表年）とする。3名以上の共著文献の場合には、筆頭著者の姓の後に「ほか」または「et al.」をつける。

4. 文献

- 1) 文献リストは、和文を先にして著者を五十音順にし、その後に英文を著者のアルファベット順に並べ、「著者（発表年）表題．掲載誌，巻数（号数），はじめのページ-終わりのページ．」とする。第一著者が同一のものは過去のを上に最近のを下にして年代順に並べる。第一著者が同一であり、かつ同一年に複数の文献がある場合は、引用順に年にa, b・・・を付して並べる。例えば、1992a, 1992b, ○○（2020a）・・・, ○○（2020b）・・・, ・・・（○○, 2020a, 2020b）。

例：

高橋 稔（1967）地下水地域調査にみられる水温の総括的研究．地質調査所報告，**219**, 41p.

竹内篤雄・中山健二・渡辺知恵子（2001）温度を図って地下水を診断する．古今書院，187p.

田上雅浩・一柳錦平・嶋田純（2013）日本における降水の安定同位体比の季節変動と空間分布．日本水文科学会誌，**43**（3），73–91.

山野誠（2010）都市の地下熱環境の復元．谷口真人編，アジアの地下環境－残された地球環境問題－．学報社，187–213.

Bense, V.F., Gleeson, T., Loveless, S.E., Bour, O. and Scibek, J. (2013) Fault zone hydrogeology. *Earth-Science Reviews*, **127**, 171–192.

Schwartz, F.W. and Zhang, H. (2003) Fundamentals of Ground Water. John Wiley & Sons, 583p.

Suzuki, K., Kubota, J., Ohata, T. and Vuglinsky, V. (2006) Influence of snow ablation and frozen ground on spring runoff generation in the Mogot Experimental Watershed, southern mountainous taiga of eastern Siberia. *Hydrology Research*, **37**(1), 21–29.

Suzuki, K. (2011) Siberia. In Encyclopedia of Snow, Ice and Glaciers, Singh, V.P., Singh, P. and Haritashya, U.K. (Eds.), Springer Netherlands, 1028–1031.

Suzuki, K., Matsuo, K. and Hiyama, T. (2016) Satellite gravimetry-based analysis of terrestrial water storage and its relationship with run-off from the Lena River in eastern Siberia. *International Journal of Remote Sensing*, **37**(10), 2198–2210.

Toth, J. (1959) A theoretical analysis of groundwater flow in small drainage basins. *Journal of Geophysical Research*, **68**(16), 4795–4812.

Tyler, B.C., Herczeg, A.L. and Barnes, C. (2000) Isotope engineering – Using stable isotopes of the water molecule to solve practical problems. In *Environmental Tracers in Subsurface Hydrology*, Cook, P. and Herczeg, A.L. (Eds.), Kluwer Academic Publishers, 79–110.

- 2) ウェブページは引用可能であるが、原則として公的機関による文書やデータベース等、公共性が高い情報に限定する。また発行年の代わりにサイトを確認した最後の日付を示す。例：

気象庁 (2007) 気象統計情報. <http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>. (2015.1.28 閲覧)

- 3) オンラインジャーナルにおいて、早期公開等の理由により巻・号・ページについて記載が無い文献を引用する場合は、それらに代えてdoiを記述すること。例：

Bense, V.F., Person, M.A., Chaudhary, K., You, Y., Cremer, N. and Simon, S. (2008) Thermal anomalies indicate preferential flow along faults in unconsolidated sedimentary aquifers. *Geophysical Research Letters*, **35**, L24406, doi:10.1029/2008GL036017.

5. 図・表・写真

- 1) 図・表・写真は必要最小限とし、重複して示すことは避ける。
- 2) 図・表・写真は、A4 用紙 1 枚につき 1 つを十分に見やすい大ききで示し、本文の後に図・表の番号と説明文を添付する。本文中には、欄外に挿入位置を赤で指定する。
- 3) 図・表・写真の番号は、Fig. 1, Table 1, Photo 1 とし、本文中の引用では Fig. 1, Table 1, Photo 1 の表現を用いる。
- 4) 図・表・写真中の文字はすべて英語とする。またこれらの説明文もすべて英語とする（ただし、編集委員会からの依頼原稿等において、同委員会が必要と認める場合は和文を可とする）。
- 5) 図・表・写真の説明文は、一括して別葉に記し、図・表・写真中には記入しない。
- 6) 図・表・写真の刷り上がりは半ページ幅（横最大 6.5 cm）または全ページ幅（横最大 13.0 cm）になるので、欄外に希望する刷り上がりの大きさ（半ページ幅か全ページ幅）を記入する。
- 7) オンライン版の図表等のカラー化を希望する場合は、あらかじめ白黒版とカラー版の双方を作成して提出する。
- 8) 紙原稿の場合は、明瞭に書くこと。再生紙を使用しないこと。